

(2016-2017年度)

第8回複合地区ガバナー協議会議長【ウェブ】連絡会議要録

◎ 日 時: 2017年4月17日(月) 13:00-14:30

◎ 会議システム: オムニジョイン(OmuniJoin)

◎ 出席者: 330 複合地区協議会議長 井出 孝 (副世話人)
331 複合地区協議会議長 柏崎 昭朗 (副世話人)
332 複合地区協議会議長 柳本 英洋
333 複合地区協議会議長 中嶋 正昭
334 複合地区協議会議長 久野 好輝
335 複合地区協議会議長 神崎 守
336 複合地区協議会議長 安田 克樹 (世話人)
337 複合地区協議会議長 吉見 章一

国際理事(2015-2017) 佐藤 宜之
国際理事(2015-2017) 安井 克之
国際理事(2016-2018) 中村 泰久

13:00安田世話人より開会。議長会議の終了14:30より、一般社団法人日本ライオンズ理事会を行う。

◎ 議 事:

【国際理事案件】

1. 春季国際理事会報告

3月24日～27日ギリシャのアテネで行われた春季国際理事会について、報告あり。

- 2022～2024年の国際大会開催都市が決定した。2022年ニューデリー(インド)、2023年ボストン(米国)、2024年メルボルン(オーストラリア)。
- 3月21日現在のシカゴ国際大会登録人数は30,291人。最終予想は45,000人。登録人数の内訳は、米国・ネパール・インド・中国・日本の順が多い。
- GMT/GLTに加えて、新年度からGST(グローバル・サービス・チーム)が加わるようになった。これらを総称して「グローバル・アクション・チーム」という。日本はFWTが継続されるため、4つのチームが発足することになる。MDコーディネーターの任期は3年、LCIが任命する。任命はエリアリーダーに委ねられているので、次期MDコーディネーター人事は白紙にしておいてほしい。ところで、地区コーディネーターは任期1年とし、ガバナーが任命する。
- リジョン・チェアパーソンの設置は任意、ガバナーの判断による。従来通り変更はない。
- 地区ガバナー諮問委員会に、クラブ第1副会長も加わるようになった。
- 標準版クラブ会則及び付則が改正される。
- チャーター申請の際、ガイディングライオンは2名から1名に変更される。
- 国際理事及び国際第3副会長の選出。同一地区でも就任可能となり、立候補の(推薦)有効回数は、2回の大会から3回の大会までとなる。
- 台湾の300-C1地区ガバナーは、理事会方針に沿わない行動をとっており、改善が見られないことから、ガバナー職を罷免された。元ガバナーとはならない。

国際理事の報告を受け、質疑応答あり。次期MDコーディネーターは白紙としておくことを確認した。

【議長会案件】

2. スペシャルオリンピックス日本(SON)との調印について(中村国際理事)

中村国際理事より、スペシャルオリンピックス日本とのパートナーシップのための調印について提案あり。法人理事会において検討する。

3. 2019年OSEALフォーラム入札に関して(MD336)

安田議長から、2019年第58回OSEALフォーラムを広島で開催することを決議し、入札に参加するとの報告あり。11月に開かれる台南フォーラムで、開催地が決定される予定。

そこで、各MDに協力金拠出のお願いあり。336を除く7つのMDは正会員(子会員除く)1人当たり2千円、336-C地区は6千円、336-A・B・D地区3千円。開催地が決定次第、あらためて協力依頼が行われる。

提案説明を聞いた後、意見交換あり。前回日本の福岡で行われたときの協力金額を調べて、各議長に報告していただく。

4. シカゴ国際大会「日本ライオンズ代議員会・朝食会」開催について

7月2日(月)ヒルトン・シカゴ(LCI本部ホテル)3階 Williford において、400人を想定して過去例から8MDに配分した目標人数及び式次第案が配布された。国際理事候補者所属のMD334が設営の準備を進めており、久野議長から登録料一人5千円でお願いたいとの要望あり。了承。なお、朝食はビュッフェスタイル、第1部代議員会、第2部朝食会の2部制とする。第2部の役員挨拶までの式次第を済ませてから、朝食開始となる。

◇目標人数(合計402人)

MD330	69人	MD334	80人
MD331	30人	MD335	68人
MD332	30人	MD336	40人
MD333	45人	MD337	40人

5. 国連支援募金運動に対する協賛名義(*)使用の承認について

(*)「薬物乱用防止認定講師育成講座」とは別のも。事業名称は「ダメ。ゼッタイ。」国連支援募金運動、年間を通じて行う。重点募金活動期間は平成29年6月20日～平成29年7月19日。事業の目的は厚生労働省が主催する「ダメ。ゼッタイ。」普及運動と「新国連薬物乱用防止根絶宣言」(2009年～2019年)の支援事業の一環として薬物乱用防止への理解と認識を高める。

(公財)麻薬・覚せい剤乱用防止センターの井村伸正理事長からの文書コピー配布。事務手続きの不手際により、協賛名義の使用許可願いを東京の330-A地区事務局に発送していたとお詫びあり。募金を強制するものではないが、提出された資料の47都道府県の寄付一覧をみると、多くの地区でライオンズクラブが募金活動に協力している実態がある。

募金運動は各クラブの任意との前提で、「ライオンズクラブ国際協会330～337複合地区」の協賛名義使用を許可してはどうかとの提案あり。採決の結果、反対なし。全議長賛成。

6. 国際理事立候補者推薦手続規則及びオセアル・ガイドライン

ライオンズ必携第56版P.172 には、国際理事立候補者推薦手続規則に続けて【参考指針】「国際理事候補者の推薦について」の一文が掲載されているが、これに代わって、2016年の第55回香港フォーラムで決議されたオセアル・ガイドラインを改訂版に掲載してはどうかとの提案あり。

〔審議結果〕別紙添付のオセアル・ガイドラインをライオンズ必携第57版に掲載する。

7. 日本ライオンズ次世代リーダー研究会について(MD333)

4月5日～6日千葉の木更津で行われた「日本ライオンズ次世代リーダー研究会」について、中嶋議長から報告あり。GLT80名、FWT100名の参加があり、研究会は大変好評だった。しかし、MD予算のないところで研究会を開いたため、赤字が出た。来期は名古屋開催が予定されているため、今後は一般社団法人日本ライオンズの後援及び各MDから協力金をお願いできないかとの要望あり。

8. 次年度・一般社団法人日本ライオンズ構成(案)について

資料配布。法人理事会において検討する。

9. 東京オリンピック・パラリンピック支援・新規口座開設のお知らせ

3月14日に、オリンピック・パラリンピック支援金受入のため「一般社団法人日本ライオンズ」名義の新規口座が三菱東京UFJ銀行京橋支店に開設され、各地区に通知された文書及び最新の入金状況一覧配布。支援本部長名義の中野支店口座は6月までには閉鎖し、京橋支店口座に集約する予定との報告あり。

また、4月11日に行われたMD330オリンピック・パラリンピック支援特別委員会の会議録コピー配布。支援金の使途については、法人理事会で検討する。

10. 2018年1月以降のライオン誌の方向について(ライオン誌日本語版委員会)

4月10日付け石井博之ライオン誌日本語版委員長の書簡コピー配布。法人理事会において検討する。

11. 各種委員会報告

- (1) 2月8日LCIF MDコーディネーター会議録(第4回)
- (2) 3月24日複合地区国際大会委員長連絡会議・小委員会要録
- (3) 4月5日第9回ライオン誌日本語版委員会会議報告書
上記会議要録・報告書(既配信済)。

12. 日本ライオンズ会計報告

2017年3月会計報告配布。詳細は法人理事会で確認する。

13. その他(ライオンズPR)

4月4日付け株式会社博報堂の「ライオンズクラブ媒体出稿ご参考資料」一式配布。詳細は法人理事会で確認する。

14. 今後の会議予定

2017年5月29日(月)13:00～15:00 第9回議長連絡会議【ウェブ】

6月12日(月)午後 現・次期議長引継ぎ会議(集合)

6月13日(火)午前 一般社団法人日本ライオンズ理事会

6月13日(火)午後 一般社団法人日本ライオンズ定時社員総会(2回目)

以上

一般社団法人日本ライオンズ第9回理事会決議事項より、議長会議案に関する箇所を抜粋：

・前掲議案2のスペシャルオリンピックス日本(SON)とのパートナーシップ協定調印を了承する。

・前掲議案8の次年度・一般社団法人日本ライオンズ構成(案)は、ガバナーが議長を兼任しない場合もあるため、正社員を現職地区ガバナー35名及び現職協議会議長8名とする。なお、定款の変更や法人理事会の役員構成は社員総会で決定する。

・前掲議案9の東京オリンピック・パラリンピック支援金の使途は、当初の目的であるパラリンピック選手の育成・強化とすることを再確認した。

・前掲議案10の今後のライオン誌日本語版の方向性については、議長会及び理事会としては書簡による提案を判断しがたく、4月5日の第9回ライオン誌日本語版委員会会議の協議結果を尊重せざるを得ないだろうとの意見が多かった。

・前掲議案12の法人会計報告を了承する。会議出席者の航空券代は28日前までの早割運賃での購入を努力していただき、実際に購入した航空券の領収証提出を必須とする。

・前掲議案13については、日本のライオンズクラブを効果的にPRすることに全議長が賛成した。サンプル版(約50万円)制作の提案を了承する。評価の後、次年度のPR予算計上を検討する。

2017.2.9

オセアル会則地域（会則地域5）からの国際理事および国際副会長候補者の承認および候補者となるための資格基準に関するガイドライン

このガイドラインは準地区、単一地区または複合地区が国際理事または国際副会長候補者をエンドース（推薦承認）するにあたり、またはライオンズ会員がこれらの役職に立候補するにあたり、その資格基準としての指針を示すものである。

このガイドラインは、これらの役職が果たすべき役割や責任をもとにして定めたものであり、また、各代議員が候補者を検討するに際してその判断のためのチェックリストとして機能するものである。

このガイドラインは、オセアル・スタンディング委員会が2016年11月第55回オセアルフォーラムにおける決議に従い、国際役員候補者の資格をレビューするに際してもそのチェックリストとして使用される。

国際理事及び国際副会長候補者の資格要件

- a) 複合地区による承認を求める以前に、少なくとも2回のエリアフォーラムと2回の国際大会に出席し、積極的に活動に参加しているべきである。
- b) 地域及び国際理事会のリーダーは、候補者となる人物に以下の要件を満たすことを期待する。複合地区及び地区は、候補者となる人物を推薦承認する前に、その人物に以下の資質があることを確認することが求められる。

- 1) 地区・複合地区の活動への参加
候補者は地区のプロジェクトや活動に活発に参加してきた経歴がある。
- 2) ライオンズムにおける経験
候補者はライオンズクラブ国際協会、複合地区及び地区の行う各種プログラムへの参加を通じて、必要なライオンズに関する知識と経験を有する。
- 3) ライオンズにおける成果実績（国際会長アワード、PMJF等）
候補者は国際会長アワード、リーダーシップメダルそして（または）累進メルビン・ジョーンズ・フェロー等の実績がある。
- 4) ライオンズリーダーおよび市民としての好ましいイメージ
候補者はライオンズリーダーとしてふさわしい良いイメージの持ち主であり、地元の市町村、コミュニティにおいて一般に良いリーダーそして市民として認められている。

1

- 5) 会員増強への貢献
候補者は推薦承認を得るまでにライオンズ会員として最低でも5名の会員をスポンサーしている。
 - 6) リーダーシップの資質
候補者はリーダーとしてよいマナーを身に付け、人の話を聞き、自ら意思決定を行い、思いやりをもち、国際協会の利益のために適切でよく考えられた決断を行う能力がある。
 - 7) 効果的なプレゼンテーションの能力
 - 8) 国際的視野
候補者は、世界のライオンズとして、自らの地区、複合地区、会則地域の枠の中だけでなく、国際的な視野と識見を有する。
 - 9) 活動に必要な時間
候補者はライオンズの行事や仕事に必要とされる際に出席し、活動を行うために自らの時間を調整し時間を作ることが可能である。
- c) 基本的な IT 処理能力